

2022.12.22

報道関係者 各位

< 配信枚数2枚 >

【立命館土曜講座のご案内】

1月テーマ「障害のある先生が仕事を続けるということー障害と教育の交わる場所」

開催日時：2023年1月14日(土)・21日(土) 10:00~11:30

開催方法：オンライン(Zoom ウェビナー)

1月の立命館土曜講座は、生存学研究所の企画として、「障害のある先生が仕事を続けるということー障害と教育の交わる場所」をテーマに、オンライン(Zoom ウェビナー)で開講いたします。

どなたでも無料で受講いただけますので、ご関心のある方のご参加をお待ちしております。

記

■立命館土曜講座 1月テーマ「障害のある先生が仕事を続けるということー障害と教育の交わる場所」**(1)第3373回「『障害のある教員』の職場復帰のプロセスと課題」**

日時：2023年1月14日(土) 10:00~11:30

講師：立命館大学産業社会学部 教授 大谷 いづみ

(2)第3374回「『障害のある教師』からインクルーシブ教育を問い直す」

日時：2023年1月21日(土) 10:00~11:30

講師：東京大学先端科学技術研究センター 特別研究員 中村 雅也

開催方法：オンライン(Zoom ウェビナー)

内 容：別紙参照

聴 講 料：無料

定 員：400人 ※実施2日前17:00までに要事前申込。定員に達し次第、受付を終了。

申込方法：立命館土曜講座のWEBサイトよりお申し込みください。

https://www.ritsumeai.ac.jp/community_affiliations/kikou/doyokozakikoh/

主 催：立命館大学衣笠総合研究機構

そ の 他：文字通訳を配信しています。

以上

本リリースの配布先：京都大学記者クラブ、草津市政記者クラブ、大阪科学・大学記者クラブ

●内容についてのお問い合わせ先

立命館大学衣笠総合研究機構 担当：武田・堀

TEL.075-465-8224

別紙

■立命館土曜講座 1月テーマ「障害のある先生が仕事を続けるということー障害と教育の交わる ところ」

(1)第 3373 回「『障害のある教員』の職場復帰のプロセスと課題」

日時：2023年1月14日(土) 10:00～11:30

講師：立命館大学産業社会学部 教授 大谷 いづみ

講師による内容紹介：

2019年1月、文部科学省は、「障害者活躍推進プラン」を発表し、障害のある教師等の活躍は、障害のある児童生徒等のロールモデルになるだけでなく、すべての児童生徒等に対して、共生社会に向けた「隠れたカリキュラム」になるとしてその推進を打ち出しました。そのためには、「障害のある教員」の存在はもちろん、何らかの理由で就労中断を余儀なくされた際の「職場復帰」のありかたも視野に入ってきます。もちろん、「障害のある教員」の職場復帰は、もともと障害のある教員に限りません。誰でも、突然の事故や思いがけない病で、「障害のある教員」になる可能性を持っているからです。

本講座では、2021年1月、脳卒中で右半身と強度の失語症に見舞われながら、1年余に及ぶリハビリテーションを経て、2022年4月に重度の障害をもって学長職に完全復帰された、立命館アジア太平洋大学(APU)の出口治明先生からメッセージをいただきます。また、これまで身近に見知った「障害のある教員」や自身の経験もふまえて、「障害のある教員」の職場復帰のプロセスと課題を考えてみたいと思います。

(2)第 3374 回「『障害のある教師』からインクルーシブ教育を問い直す」

日時：2023年1月21日(土) 10:00～11:30

講師：東京大学先端科学技術研究センター 特別研究員 中村 雅也

講師による内容紹介：

インクルーシブ教育とは人間の多様性を尊重し、障害のある人が社会に効果的に参加することを目的に、障害の有無にかかわらず子どもたちがともに学ぶ教育です。これまでインクルーシブ教育はもっぱら障害のある子どもを包摂する教育として捉えられてきました。しかし、インクルーシブ教育が多様性を尊重し、障害を包摂する教育であるならば、子どもたちだけでなく、教育のもう一方の当事者である教師の障害も包摂するものでなければなりません。それにもかかわらず、これまで障害のある教師は教育現場からむしろ疎外されてきました。学校という組織や学校教育という制度がそのようなエクスクルーシブ(排他的)な構造をもっているからです。

本講座では、障害のある教師の教育実践を紹介し、障害のある教師という視座からインクルーシブ教育について考えます。また、障害のある教師を取り巻く課題を分析し、障害のある教師が実力を発揮して働き続けるための支援方策についても検討します。

■立命館土曜講座

1946年から続く、市民向けの無料公開講座。故・末川博名誉総長の「学問や科学は国民大衆の利益や人権を守るためにある。学問を通して人間をつくるのが大学であり、大衆とともに歩く、大衆とともに考える、大衆とともに学ぶことが重要」との思いのもとに、大学の講義を市民に広く開放し、大学と地域社会との結びつきを強めることを目指しています。

<WEB サイト> https://www.ritsumei.ac.jp/community_affiliations/kikou/doyokozakikoh/